

第72次 印旛地区教育研究集会 特別支援教育
研究主題

知的学級と自閉症・情緒学級の児童が共に学べる単元の開発
～卒業を祝う会を開こう～



令和4年8月24日
栄町立竜角寺台小学校
安部 幸子
宮坂 伸之

1 研究主題

知的学級と自閉症・情緒学級の児童が共に学べる単元の開発
～卒業を祝う会を開こう～

2 主題設定の理由

(1) 学習指導要領より

本実践は、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領「第1章総則第2節小学部及び中学部における教育の基本と教育課程の役割」の以下の項目を受けて行っている。

2- (1) 基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、これらを活用して課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実に努めること。その際、児童又は生徒の発達の段階を考慮して、児童又は生徒の言語活動など、学習の基盤をつくる活動を充実するとともに、家庭との連携を図りながら、児童又は生徒の学習習慣が確立するよう配慮すること。

2- (4) 学校における自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養うため、自立活動の時間はもとより、学校の教育活動全体を通じて適切に行うものとする。特に、自立活動の時間における指導は、各教科、道徳科、外国語活動、総合的な学習の時間及び特別活動と密接な関連を保ち、個々の児童又は生徒の障害の状態や特性及び心身の発達の段階等を的確に把握して、適切な指導計画の下に行うよう配慮すること。

(2) 地域や児童の実態より

栄町は千葉県北部中央に位置し、印西市と成田市に隣接している。北に利根川が流れ、南に印旛沼がある。中心部には利根川と印旛沼を結ぶ長門川、西に将監川が流れており、川に囲まれた町である。

竜角寺台地区は、栄町の南側に位置した高台の地区であり、成田市に近い。新興住宅地として開発された地区である。学区近くに国の史跡に指定されている龍角寺古墳群・岩屋古墳などが保存されている。また房総のむらが徒歩圏にあり、一年生を迎える会を兼ねた全校遠足の場所となっている。

竜角寺台小学校は、児童数120名程度、各学年1学級の単学級である。ほとんどの児童が1年生から6年生まで同じメンバーで過ごすため、児童同士は学年を越えて繋がっている。穏やかで優しい子が多く、言われたことは守ろうとする児童が多い。その反面、挑戦することや失敗することに憶病になりすぎる面も持っている。保護者の多くは学校に協力的で、読み聞かせ等のボランティア活動をしてくださる方も多い。保護者の他に地域ボランティアとして学校の活動に参加してくださる方もいて、地域全体で子どもを育てていこうという気概を感じる。

特別支援学級は知的学級のひまわり1組と自閉症・情緒学級のひまわり2組がある。

ひまわり1組(知的)は1年男子1名、2年女子1名、5年女子1名、6年男子1名が在籍している。1年男子1名と2年生女子1名については、基本的に国語科・算数科のみひまわり学級で学習に取り組み、それ以外の学習は実態に応じて交流学級で取り組んでいる。5年女子1名と6年男子1名は基本的

にひまわり 1 組で学習に取り組んでいる。その他に、6 年生男子 1 名と 3 年生女子 1 名が、ひまわり学級で国語科や算数科の学習をしている。この 2 名は、今のところ在籍はしていないが、特別支援学級への転級を予定している。

ひまわり 1 組の実態については、6 人がそれぞれ学年や能力が異なるため、一つ一つの活動において個別に目標を設定し、個に応じた支援を行っている。そのため、今回のように全員が一緒になって活動する機会がほとんどなかった。児童の多くは、友達や先生と会話をしたり、同じ活動をしたりすることを楽しみにしている。また、交流学級の周りの友達より時間を要するが、一生懸命課題を達成できるように努力する姿が見られる。しかし、相手と会話をというよりは、一方的に自分の話をしていることが多い。また、交流学級に行くと、うまくコミュニケーションが取れず、静かになってしまう児童もいる。さらに、身体的な接触を極端に嫌がる児童がおり、新型コロナウイルス感染症の流行の影響もあって、最近はその傾向がさらに強くなっている。生活面では、自分のことは自分でできるように取り組んできた。人に会ったら挨拶をする、時間を守る、身の回りの整理整頓等、基本的な生活習慣を身に付けることができるように支援をしている。多くのことが自分でできるようになってきているが、一人でできない時には、教師や周りの人に助けを求めることもある。また、バスに乗ったり、自分で買い物に行ったりするといった経験は少ない児童が多い。

ひまわり 2 組(自閉症・情緒)は、1 年男子 1 名、2 年女子 2 名の計 3 名が在籍している。それぞれの支援すべき特性が異なるため、ひまわり 2 組で学習する時間や交流学級で過ごす時間はまちまちである。教科の学習をひまわり学級で行うこともあるが、朝の読書タイム、5 校時の前のチャレンジタイムにひまわり学級を利用したり、気持ちが高ぶっている時に落ち着くための場所にしたり、その子の状況に応じてひまわり 2 組を利用している。学習は一対一で行うことが多く、友達と共に学ぶ機会は交流をしている時となる。新型コロナウイルス感染症対策で異学年交流を控えていることもあり、3 人がそろって活動する機会は少ないが、10 月の「ハロウィンパーティを開こう」では、ひまわり 1 組と合同で活動することができた。また、同じ放課後デイサービスに通っているため、週に 2、3 回は一緒に学校から通所しており、3 人でいる時は仲良く過ごしている。

どの児童もひまわり学級の活動には楽しそうに参加し、意欲的である。しかし、今年度は共に制作を行ったり、学習や遊びを通してコミュニケーションを取ったりする機会を持つことが難しかった。そのため、集団としての意識を高めることは困難であった。

3 主題について

特別支援学級であるひまわり学級に在籍している 7 名と通級している 2 名は、1 年生から 6 年生までの異学年で構成されているため、一緒に活動するためには、交流学級との調整が必要となる。全ての学年の児童で同時に学習を行うことは難しい。しかし、色々な社会的体験を一緒にしたり、ひまわり学級の中で上級生としてリーダーシップを発揮したりすることで、コミュニティに参加しているという実感や頼りにされているという達成感を味わわせたいと考えている。

そこで、「卒業を祝う会を開こう」という単元を通して、話し合って計画を作ったり、バスに乗る練習をしたりすることで、「一緒だから安心できる」「一緒だから助け合える」という仲間意識を育てたい。

また、「卒業」をテーマにすることで、それぞれが近い将来体験する「卒業」について知ると同時に、「お別れではなく成長であり、おめでとうと言われる出来事なのだ」というポジティブで具体的なイメ

ージを持たせたいと考えている。

7 人の特性は、知的学級と自閉症・情緒学級のそれぞれで違いがあり、また個々に支援の仕方に違いが求められる。しかし、個々に応じた支援を行ったり、克服できる課題を用意したりすることで、「できた」という達成感や「自分は大丈夫だ」「挑戦することができた」という自己肯定感を育んでいきたい。

4 研究の目標

一つの単元を「一緒に活動する過程」と「生活単元と自立活動に分ける過程」に分けて計画し、知的学級と自閉症・情緒学級の児童のそれぞれの特性に応じた支援を行うことで、児童が意欲的に取り組むことができる単元作りと学習過程の構築を実践を通して検証する。

5 研究の仮説と手立て

(1) 仮説 1

生活単元と自立活動のめあての違いを明確にし、それぞれの児童の実態に応じた学習計画を立て、手立てを考えることで、知的学級と自閉症・情緒学級の児童が同じ単元と一緒に学ぶことができるだろう。

ひまわり 1 組（知的学級）とひまわり 2 組（自閉症・情緒学級）の児童は、それぞれに特性が異なっている。そのため、共同で学習を行う時間とひまわり 1 組とひまわり 2 組に分けて学習する時間を設定する。

単元の流れを理解するための導入、校外に出る体験学習、卒業を祝う会、他校との交流などは、共同で行い、個々への対応が必要な時間はそれぞれの学級で行うようにする。

このように特性に合わせて学習計画を設定することで、「卒業を祝う会を開く」という共通の目標は共有しながら、個々の課題に対しての対応もできると考えた。

ひまわり 1 組では、生活単元学習として設定し、「卒業を祝う会を開く」というゴールに向けて、計画や準備をしたり、買い物やバスに乗る練習をしたりすることを通して、児童の生活力を高めることをねらいとした。

買い物の学習では、商品の値段を合わせる計算や持っているお金で買うことのできる商品を選ぶ練習をする。バスに乗る学習では、バスに乗る手順を覚え、順番通りに進める練習をする。このように、本単元だけで終わらせるのではなく、日常生活でも実践できるような学習内容にしていこうと考え、学習計画には、買い物に行くために必要なことなど、日常生活ですぐに活用できることが多く盛り込まれている。

ひまわり 2 組では、自立活動の学習として設定し、心理的な安定、人間関係、コミュニケーションに特化して学習内容を設定する。そのため体験学習の練習では、バスの中やスーパーマーケットの店内などの公共の場でのエチケットや友達への励ましの声のかけ方、話の聞き方などを中心に練習していく。

このように、特性に応じたねらいの設定や手立てを行うことで、知的学級の児童と自閉症・情緒学級の児童が同じ単元と一緒に学ぶことができると考えた。

(2) 仮説2

必然性のある目的を持たせ、そこまでの流れを提示し、視覚的に環境を整えたり教具の工夫をしたりすることで、学習に見通しを持ち、主体的に学習に取り組むことができるだろう。

特別支援学級に在籍する児童は環境の変化を苦手とすることが多く、「卒業」をネガティブな感情で捉えることが多い。明るく楽しい会を体感することで、卒業は「おめでとう」と言われる嬉しいことであり、成長することは良いことだというポジティブな意識を持たせるようにする。

そのために「卒業を祝う会」の目的を児童が把握しやすい紙芝居という形で提示する。自分たちが登場する紙芝居を見ることで卒業は自分にも関係あることだという当事者意識を持たせる。そして、その会に至るまでの流れや練習する内容を学習計画として提示することで、見通しを持ち、安心して学習に取り組めるようにしていく。その過程で、学習に対する個々のめあてを持ち、その振り返りを行うことで学習に前向きに取り組めるようにする。

また、「バスにのる」「おやつ交換のためのお菓子を買いに行く」というイベントのための練習をすることにより、楽しさや期待といったポジティブな気持ちを育てることができると思われる。

また、練習のための教具の工夫をすることで、より本番に近い練習となり、今後の生活体験につながっていくと考える。

6 学習の流れ

(1) 単元の目標

- ・ 卒業生へのお祝いのメッセージを表現したり、「卒業を祝う会」の準備をしたりすることで、卒業に対する理解を深めることができる。(ひまわり1組・2組共通)
- ・ 「卒業を祝う会」の準備をするためには、適切な人間関係が必要であることを知り、協力しようとすることができる。(主にひまわり2組)
- ・ 日常生活の中で、金銭の価値がわかり扱いに慣れることができる。(主にひまわり1組)
- ・ バスに乗る体験や買い物体験を、今後の生活に生かそうとする。(ひまわり1組・2組共通)

(2) 単元計画 (14時間扱い)

過程 (時 数)	学習内容	主な支援		学習形態
		ひまわり1組	ひまわり2組	
導入 (2)	・ 卒業を祝う会について知る。	・ 卒業を祝う会とは何か、自分たちが何をするのか、分かるように視覚的に示す。	・ 何を行うか紙芝居で見ることで見通しを持てるようにする。	共同
	・ プログラムを見て祝う会の内容を話し合う。	・ プログラムを掲示物で示すことで内容が分かるようにする。	・ 会の内容を具体的に知ること、安心できるようにする。	

練習と準備	卒業を祝う会の準備をする。 ・プログラムを作る。 ・卒業生の言葉、お祝いの言葉を練習する。 ・スーパーマーケットにバスに乗って買い物に行くことを確認する。	・卒業を祝う会をするために必要なことが何か、話し合うよう促す。 ・卒業を祝う言葉や会の中の挨拶について示す。 ・買い物に行く行程を視覚的に分かるように示す	・準備をリストアップし、計画の進行が分かるようにする。 ・教師と一緒にお祝いの言葉を考え、発表できるように練習する。 ・買い物に行く行程を一人一人に説明して安心させる。	別プログラム
	・バスの乗り方を練習する。	・バスに乗る練習の中で、手順やルールがあることを確認する。	・バスの乗り方を繰り返し練習することで安心して乗れるようにする。	
	・スーパーマーケットでの買い物の練習をする。	・買い物の手順を掲示する。 ・おたすけカードを用意し、困った時に確認できるようにする。	・買い物の手順やお金の払いかたを、写真を見て視覚的に分かるようにする。 ・ルールやエチケットを確認し意識して練習することで安心できるようにする。	
	・バスに乗っておやつ交換のお菓子を買うに行く。	・一緒に買い物を行うことで落ち着いて行動できるようにする。	・練習で成功したことを思い出させ気持ちを落ち着かせる。	共同
	・祝う会のリハーサルをする。	・練習することで会の流れの見通しを持てるようにする。	・リハーサルで自分の役割を果たすことができるよう練習を思い出させる。	
	・飾りつけをする。	・卒業を祝うことの良さを体感できるようにする。	・プログラムを貼ったり飾りつけをしたりすることで会のイメージを持てるようにする。	
会を開く (1)	卒業を祝う会を開く。 ・司会や卒業生の言葉、お祝いの言葉を発表する。 ・おやつ交換をして、好きなお菓子の紹介をする。 ・ゲームを楽しむ。	・温かい言葉かけになるよう声をかける。	・紹介するお菓子について話せるよう、前もって考えさせておく。 ・勝敗に関わらず楽しく過ごすことを意識させる。	共同

他校に 広げる (1)	栄町の卒業生に向けて 卒業を祝う動画を作る。 ・メッセージを言う練習をする。 ・歌の練習をする。	・他校の友達にもお祝いの言葉 を伝えられるように声を かける。	・メッセージは個々の目標を 具体的に示して練習させる。	共同
振り返 り (1)	他の学校の発表を見る。 ・感想を発表する。 ・振り返りをする。	・他校の発表動画を繰り返し 見ることで、内容を理解でき るようにする。	・他校の発表を見る活動を通 して、他校の友達や活動に興 味を持てるよう声をかける。	別プログラム

7 仮説の検証と授業の実際

(1) 仮説1の検証

① ひまわり1組(知的学級) 生活単元学習として実践

学習過程	手立て	児童の変容
買い物の練習	<ul style="list-style-type: none"> ・買い物の手順をイラストで表し、掲示することで、いつでも確認できるようにした。 ・事前に買い物メモを用意することで、個数や値段を考えて買い物をするようにした。 ・児童それぞれの実態に合わせて財布の中のお金をかえることで、残りのお金を計算しながら買い物ができるようにした。 ・算数科の学習にお金を扱う学習を取り入れたり、本物のお金を教材として使ったりすることで、お金に対する知識を高めるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・困った時は手順イラストを見たり、「おたすけカード」を使ったりして練習を進めることができた。 ・自分が欲しい物をたくさん買うのではなく、買わなければいけないものだけを選んで買うことができた。 ・残りのお金がいくらなのかを計算しながら買い物を行うことができた。 ・買い物をするとき算数科の計算の学習が使えることに気付くことができた。
バスにのる練習	<ul style="list-style-type: none"> ・バス停で待つことから着座までの手順を覚えるために、教室の中にバスに見立てたコーナーを作り、お金の払い方や表示の見方が分かるようにした。 ・バスの中でのマナーを「これから社会で生きていく上で重要なものである」ということを意識させるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・竜角寺台周辺のバス停に興味を持つようになった。 ・模擬的な練習を楽しんで行うことができた。 ・バスの中で静かに過ごしたり、運転手さんに挨拶をしたりすることができた。
卒業を祝う会	<ul style="list-style-type: none"> ・6年生の「旅立ちの言葉」や在校生の「お祝いの言葉」を教師と一緒に考えることで、卒業に対してポジティブな気持ちを持てるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学校でがんばります。」という卒業の挨拶をしたり、「卒業おめでとうございます」という言葉を伝えたりすることができた。

②ひまわり2組（自閉症・情緒学級） 自立活動として実践

個々の課題	手立て	児童の変容
心理的な安定	<ul style="list-style-type: none"> 心理的な安定を課題とする児童に対して、困ったり泣いてしまいそうになったりした時は、その場を離れて落ち着くまで過ごしてもよいことを伝え、安心できるようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> 練習の時は自信を持って取り組むことができたが、実際にバスに乗った時はお金を落としたことをトリガーとして「全部失敗するかもしれない」と思い込み、パニックを起こした。その後みんなから離れてしばらく過ごすことで落ち着くことができた。
人間関係 コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"> 公共機関でのエチケットを通して集団への参加の基礎を養うためにルールの明確化を行い、掲示物として示すようにした。 <div data-bbox="767 589 911 797" style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin: 5px 0;"> <p>バスのルール</p> <p>あいさつをする 🗣️</p> <p>お金をいれる 🏠</p> <p>しずかにする 🧘</p> <p>はしらない 🚫</p> <p>おりたら ならぶ 🚶</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 子ども同士のコミュニケーションとして、声をかけあうことや挨拶を進んで行うことを推奨し、どんな言葉をかけたり、かけられたりしたら嬉しいかを話し合うようにした。 	<ul style="list-style-type: none"> ルールを明確にすることで、守るべきことが分かり、練習のめあてとすることができた。実際にバスに乗る時にもルールを意識して行動することができた。 話し合いを生かして、買い物のロールプレイを行うときには明るい声で元気に挨拶をすることができた。

(2) 仮説2の検証

過程	ひまわり 1組	ひまわり 2組
導入		 <p data-bbox="1107 344 1437 712">この単元の導入として、ひまわり 1組とひまわり 2組全員に紙芝居という形で単元の流れを提示した。自分が登場人物として紙芝居の中にいることで、卒業が間近であることや、そのことに対して会を行うということを実感として捉えることができた。また、単元の学習計画を掲示することで、学習の流れを把握することができた。</p>
練習と準備	 <p data-bbox="341 1205 778 1240">レジの前でお金を出す練習を行った。</p>	 <p data-bbox="884 1205 1385 1240">バスの中でのルールを守る練習を行った。</p>
バスに乗って買い物に行く		 <p data-bbox="309 1637 1437 1818">バスに乗ったり買い物をしたりする練習を繰り返したことで、自信を持ってバスに乗り、コンビニエンスストアで買い物をすることができた。全員が路線バスに子どもだけで乗る体験は初めてであり、一部の子は現金で買い物をすることも初めてであった。この体験を踏まえて「また、バスに乗りたい。」「お母さんと買い物に行ってみる。」という感想が聞かれた。</p>

会を開
く



6年生は卒業の言葉を発表し、在校生は一人一人が考えた卒業を祝う言葉を発表した。6年生は中学校入学に向けた前向きな言葉を発表し、在校生は心のこもった温かいお祝いのメッセージを送った。

買って来たお菓子は、「卒業を祝う会」の中で「好きなお菓子を紹介します」のコーナーでみんなに配った。全員がお菓子の紹介と好きな理由を発表することができた。

8 成果と課題

<成果>

- 同じ単元をひまわり学級全体で取り組むことができたことで、仲間意識を持たせることができた。
- 知的学級と自閉症・情緒学級の指導を場合によって分けることで、それぞれの児童に必要な支援を行うことができた。
- バスに乗ったり、買い物をしたりすることで、社会生活に必要な経験をすることができた。
- 学習のめあてを持たせ、その振り返りを行わせることで、個々の課題を自覚して学習に取り組み、自分の成長に気付くことができた。
- 卒業を祝う会に全員で取り組むことができた。卒業生にとって、卒業がポジティブな印象のものになった。また、在校生は、卒業を意識することができた。

<課題>

- △ 新型コロナウイルス感染症予防の観点により、予定が変更になってしまった。より柔軟な対応が可能な計画を立てることが必要だった。
- △ 緊張時にパニックを起こす等の個々の特性に合わせた対応の仕方をより細かく立てておくべきだった。